

国際商品市況（4/20～5/15）

原油・銅・鉄鋼原料・穀物

原油：流動的な中東情勢を背景に高値圏で乱高下

2026年 5月 19日

原油（流動的な中東情勢を背景に高値圏で乱高下）	2
主任研究員 伊勢 友理	
銅（供給不安の強まりで上昇）	2
上席主任研究員 李 雪連	
鉄鋼原料（引き続きエネルギー価格上昇が相場を下支え）	3
上席主任研究員 栗名 奈美	
穀物（米中会談で農産品の貿易拡大に合意）	3
主任研究員 浦野 愛理	

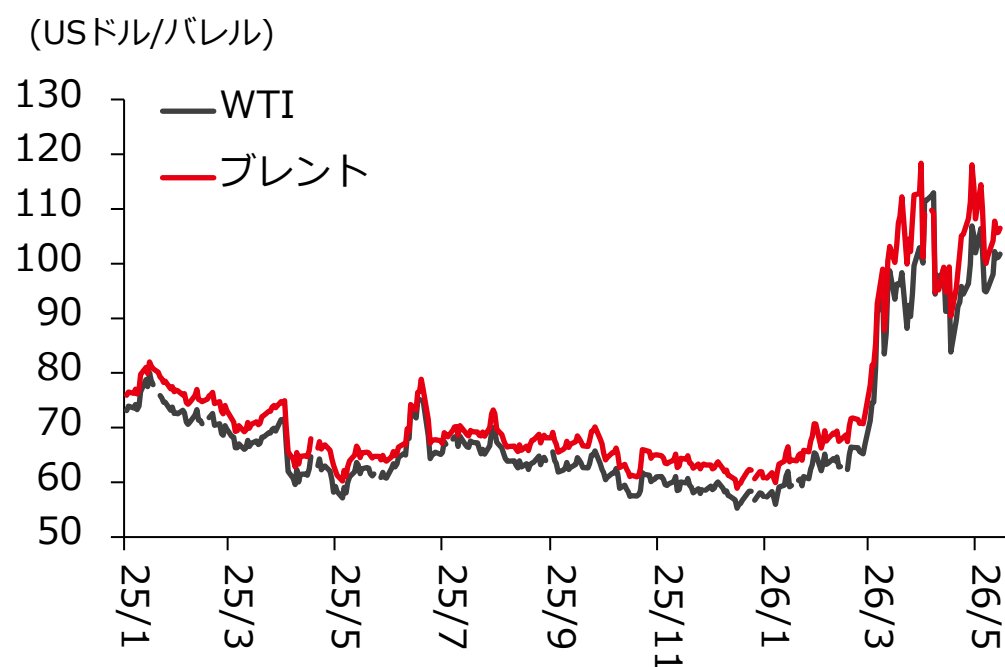
原油

主任研究員 伊勢 友理

足元の動向：ホルムズ海峡の通航量が回復しない中、原油価格は中東情勢を巡る思惑から高値圏で乱高下。ブレントは90～110ドル台、WTIは80～100ドル台で推移。4月の世界原油生産は日量約95百万バレル（紛争前比▲13百万バレル）と減少。国際エネルギー機関（IEA）によると、OECD石油在庫は4月に1.5億バレル（日量4.9百万バレル相当）取り崩され、記録的な減少となった。在庫による補填が供給不足の一部にとどまる中、全体の消費量には下押し圧力がかかっている。紛争前に海峡を通過した原油の到着は一巡しており、備蓄や購買力の乏しい国は現物不足の影響を受けつつある。韓国などでは自家用車利用の制限や、在宅勤務の推奨、省エネ推進などの対策も。

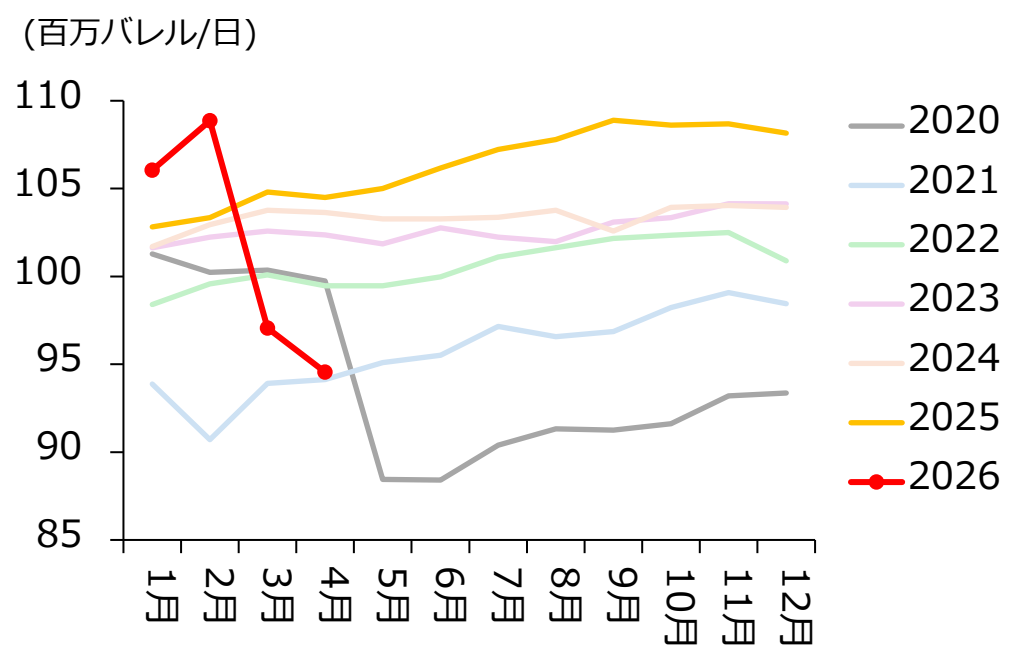
先行き：湾岸諸国の貯蔵が限界を迎える中、ホルムズ海峡の封鎖が続けば、原油生産は一段と減少する見込み。米国産などの代替供給は当面限定的で、在庫水準の低下や夏の需要ピーク期を受けて、この先価格に上昇圧力が掛かりやすい。ただし、流動的な情勢や需要調整の動きから変動も大きい。

▽原油価格（期近物）



(出所) LSEG

▽世界の原油生産量



(注) 原油（コンデンサート含む）およびその他液体燃料を含む
(出所) 米エネルギー情報局（EIA）

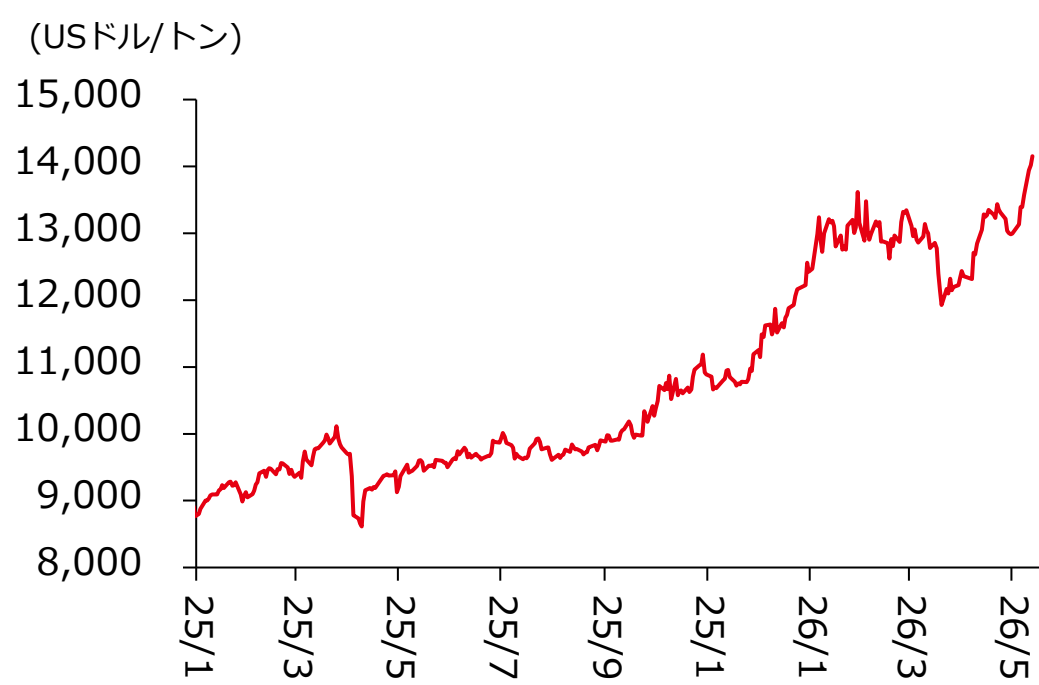
銅

上席主任研究員 李 雪連

足元の動向：ロンドン金属取引所（LME）の銅価格は、5月初めにかけて13,000ドルを割り込み下落した。銅在庫が歴史的な高水準に積み上がり、構造的な上値抑制要因として意識される中、米国とイラン間の一時的な緊張緩和を受けて、輸送コスト上昇や硫黄・硫酸など副資材供給制約への懸念が一時的に後退したことが主因。その後、緊張再燃に伴い、銅の製造・輸送面の制約への警戒が強まり、価格は14,000ドル近辺まで上昇した。加えて、インドネシア鉱山事故の復旧遅れや、中国による製錬用途の硫酸輸出制限も供給懸念を強め、上昇圧力となった。

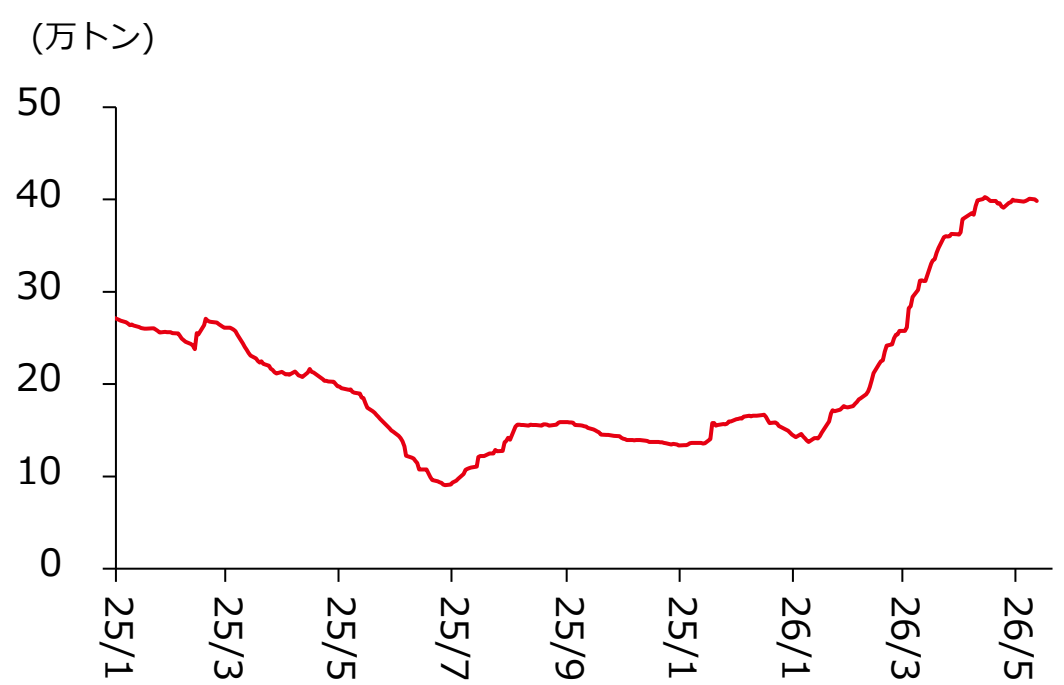
先行き：当面、中東情勢の膠着を背景に先行きの供給制約が意識されやすく、銅価格は高値圏での推移が見込まれる。供給面では鉱石不足に加え、エネルギー高や副資材の供給制約によりリスクが一段と高まっている。需要面ではデータセンター向けや再生可能エネルギー関連の需要が下支えとなる。一方、中東情勢の不確実性は極めて高く、価格は大きく振れやすい局面にある。

▽銅（LME、3カ月物）



(出所) LSEG

▽取引所在庫（LME）



(出所) LSEG

鉄鋼原料

上席主任研究員 桑名 奈美

鉄鉱石：鉄鉱石価格は110ドル前後まで上昇した。中国の鉄鉱石輸入の底堅さや、中東情勢緊迫による採掘・輸送コスト高が価格を押し上げた。一方、中国は住宅不況を背景に鉄鉱石需要の伸びしろに乏しく、港湾在庫も高水準にある。供給面では豪州資源大手BHPと中国側の交渉が決着し、対象鉄鉱石の販売制限が解消されたほか、4月は天候要因から出荷も持ち直した。今後、供給はおおむね安定的に推移するとみられるが、短期的にはコスト高が価格を下支えするだろう。

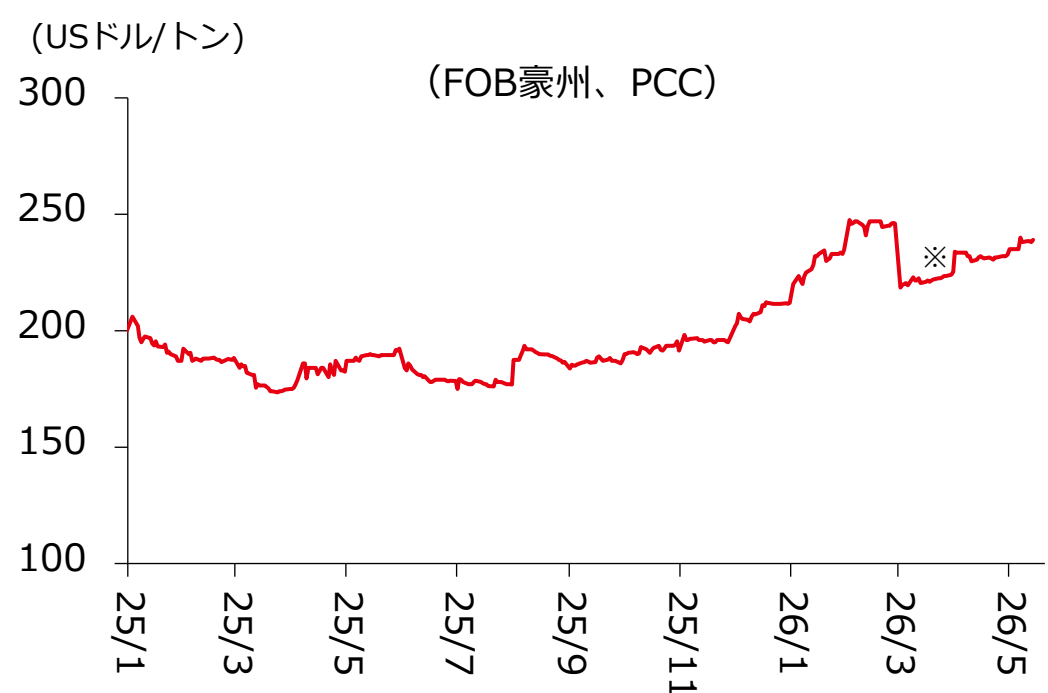
原料炭：原料炭価格は238ドル付近まで上昇した。豪州では悪天候により資源会社の1～3月の生産量が前年比で大幅に減少し、供給タイト感と燃料費上昇による採掘コストの押し上げが相場を支えた。一方、高値警戒感から主要輸入国のインドでの調達には慎重化し、上値を抑えている。今後は、6月以降のモンスーン期入りに伴うインド鋼材需要の鈍化など、需要に力強さを欠く展開が想定される一方、豪州の供給回復の遅れや採掘や輸送のコスト高が引き続き価格の下支えとなろう。

▽鉄鉱石 (SGX、期近物)



(注) SGX : Singapore Exchange
(出所) LSEG

▽原料炭 (SGX、期近物)



(注) SGX : Singapore Exchange
(出所) LSEG ※限月切替の影響を含む。

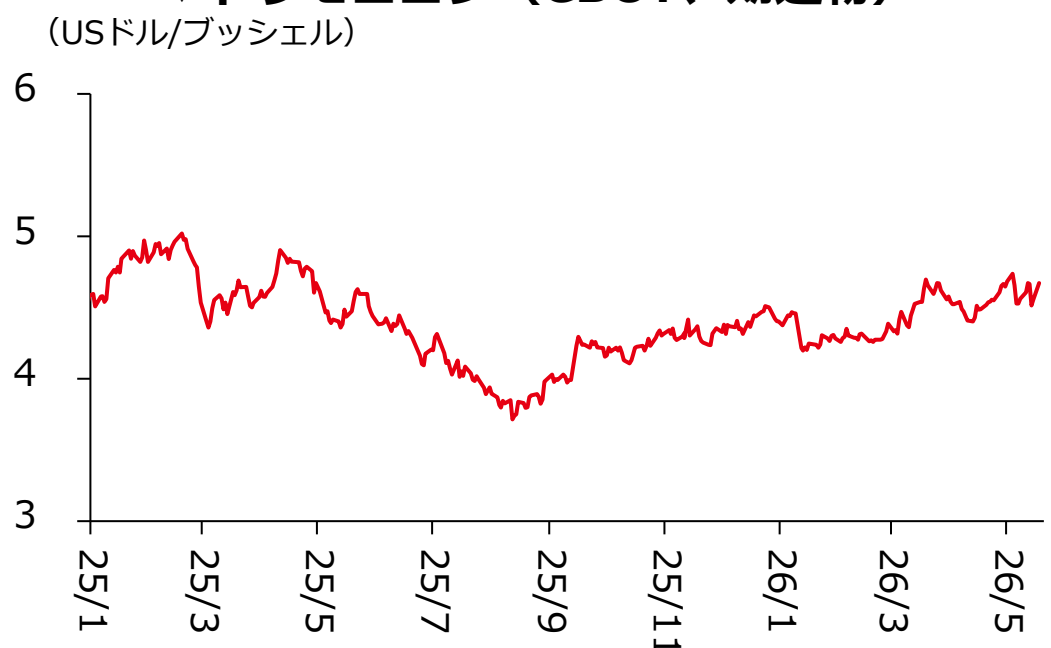
穀物

主任研究員 浦野 愛理

トウモロコシ：米シカゴ商品取引所 (CBOT) のトウモロコシ価格は、4.7ドル付近まで上昇。米国中西部の降雨予報による作付け遅延懸念や、ブラジルの乾燥懸念によるサフリーニャ (二毛作) 減産懸念が上昇要因に。米農務省の5月月報では、2026/27年度の米国産の減産見通しと需要の減少見通しが示されたが、世界の期末在庫見通しが予想を下回ったことが相場の上げ材料となった。今後は依然高水準の供給が価格の重しとなる中、燃料油や肥料などのコスト増による上昇圧力を注視。

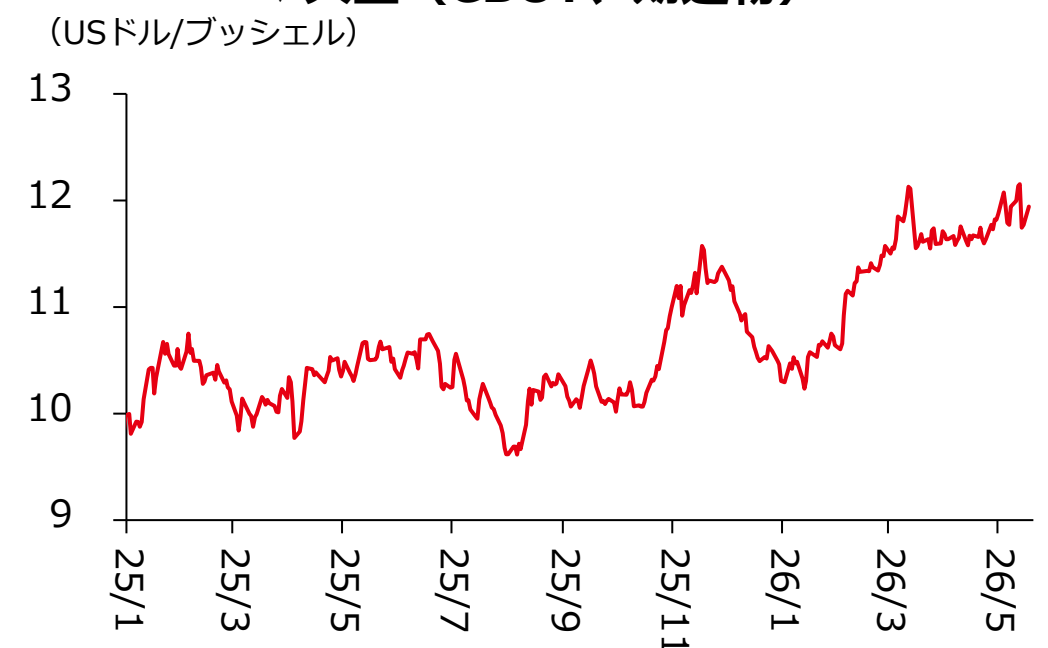
大豆：大豆価格 (CBOT) は、12ドル付近まで上昇。原油高による大豆油由来のバイオディーゼルへの需要増観測などが上昇要因に。米農務省の5月月報では、2026/27年度の米国産の増産見通し以上に需要の増加も見込まれ、期末在庫が市場予想を下回ったことも相場の上げ材料。5月14～15日の米中首脳会談は、米国側によると中国が米国産農産物を今後3年間にわたり毎年170億ドル追加購入 (昨年10月の首脳会談で合意された大豆購入分に上乗せ) することで合意。中国側は数値目標を公表していないが、農産品分野における貿易拡大に言及しており、実際の進展状況が当面の注目点。

▽トウモロコシ (CBOT、期近物)



(注) 1ブッシェル=25.4012kg
(出所) LSEG

▽大豆 (CBOT、期近物)



(注) 1ブッシェル=27.2155kg
(出所) LSEG

(執筆者プロフィール)

伊勢 友理 (Yuri Ise)

ISE-Y@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、日本、原油・ガス

日系金融機関を経て、2021年から丸紅経済研究所。2024年から25年に日本経済研究センターに出向（マクロ経済モデル、時系列データ・パネルデータ分析）。現在は主に日本の政治・経済、原油・ガスを担当。東京大学経済学部卒業。

李 雪連 (Xuelian Li)

xuelian-li@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：中国・東アジア、商品・エネルギー、産業

IT企業勤務を経て2005年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて主に中国・東アジア、商品・エネルギー、産業を担当。講演や取材、寄稿なども行う。2013年から15年まで米国・戦略国際問題研究所（CSIS）に出向し米中関係を研究。早稲田大学アジア太平洋研究科修了（国際関係学修士）。（社）日本証券アナリスト協会検定会員、国際公認投資アナリスト、中国経済経営学会会員。

栞名 奈美 (Nami Kuwana)

KUWANA-N@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：金属、化学、エネルギー、LCA、サプライチェーン分析、市況分析、産業政策分析

日系金融機関を経て、2017年から鉄鋼系シンクタンクにて鉄鋼業を中心に環境・エネルギー政策や技術動向調査・需給分析を担当。2023年から丸紅経済研究所。主に金属・化学・エネルギー産業のサプライチェーン分析や環境・エネルギー政策分析などを担当。LCA学会削減貢献量研究会委員、削減実績量研究会委員。東京大学法学部卒業。

浦野 愛理 (Airi Urano)

URANO-A@marubeni.com

主任研究員

研究分野：マクロ経済、米国、中南米、日本、穀物

2016年に丸紅入社後、丸紅経済研究所にて国内マクロ経済・金融政策などの経済調査、原油・銅市況や環境・エネルギー政策などの産業調査に従事。現在は米国や中南米などの政治経済、穀物市況を担当。2020年から22年に内閣府（経済財政分析担当）へ出向。一橋大学商学部商学科卒業。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。